

24^ミ構造用合板で13.5倍

間取り自由度高める ポラスグループ

開発したのはポラス
暮し科学研究所（同、
小見豊社長）で、「GE
E（ガード・ア・ハウ
ス・フロム・アースク
エイク）」という。柱
に受け材を付けてボル
トで24^ミ構造用合板を
留め付ける真壁耐力壁
だ。



24^ミ構造用合板を使った
高耐力壁「GE」

ポラスグループ（埼玉
玉県越谷市、中内晃次
郎社長）は24^ミ厚の構
造用合板を面材として
使用し、壁倍率13・5
倍相当の高耐力壁を開
発してグループの物件
で採用している。

GEは、105×1
50^ミの梁材を2つ割
りにしたものを受け材
として、柱に200^ミ
ピッチで留め付ける。
受け材を介して、24^ミ
厚の構造用合板を柱と
面一（つらいち）にな
るようにM16ボルトで
内壁側から固定する。
M16ボルトは100^ミ
ピッチで千鳥に施
工。現場の施工性を上

げるために柱と受け材
にボルト穴を先行で開
け、合板の四隅のボル
トを接合して現場に搬
入する。現場では、残
りのボルトを留め付け
て施工する。

公的な性能評価機関
での実験データを基に
許容応力度計算を行
い、13・5倍相当壁と
して使用する。
ポラスグループで
は、独自の耐震シミュ
レーションソフト「ウ
ッド・イノベーター」
で全棟耐震シミュレー
ションを実施してい
る。実際のプランに応
じて耐震性能を確保す
るため、GEを採用す
るケースが増えている
という。GEなどのオ
リジナル構造部材を使
用することで、間取り
変更を極力抑えて耐震
性能を確保するよう努
めている。

累計で70棟以上の採
用実績がある。

ポラス暮し科学研究
所は3階建てまで対応
できる実大振動台（1
軸加振施設）を持ち、
社内で予備実験を繰り
返してオリジナル構造
部材を開発している。

これまでもジャイア
ントブレース（7倍相
当）や幅狭耐力壁「パ
ルテノン」、透明の
「クリスタル・マジック」
など、様々な耐力
壁を開発してきた実績
がある。